



アトム休日組

園長 野中 泉

アトムは、365 日中、360 日開いている保育園です。これを他所でお話すると、たいてい「ひゃあ」「うわあ」と、とてもびっくりされます。私も、園長になる引き継ぎで初めて聞いたときには、正直衝撃でした。でも、私にその引継ぎをしてくれたあけみちゃん（田丸前園長）が言った「それでも、その年末年始のたった 5 日間でも、あの子はどうしているかな？ あのお母さんは仕事休めたのかな？ と気になるんですよ」という言葉は、年々私自身の実感にもなっています。

アトムの認可時の 2003 年当初から 20 年近く、ずっと継続してきた日・祝日の休日保育は、休日に仕事がある親たちのための保育ですが、その対象児は、アトムの在園児だけでなく熊取の子どもたちみんな。つまり平日は他の民間園や町立保育園に通っている子も、その対象になります。

そんなコンセプトの休日保育ですが、この何年かは、何度か他園の子の利用をお断りしていた期間があります。2020 年からのコロナ禍での緊急事態宣言中や、まんえん防止などいわゆる大阪府での赤信号の期間、そして今年になってからのオミクロン株の大流行の期間などです。もちろん、それは感染拡大防止の観点ではやむを得ない決断だったと、今も思っていますが、その中断期間を経て、通常どおりの受け入れ再開を決めた今年の春に、こんなやりとりがありました。

休日担当の保育士から、次の日曜日は他園の休日利用の子が 2 人いるけど、その 2 人は食事も遊ぶ部屋も分けたほうがいいですかねと相談されたのです。私は、少し考えて「やむを得ないよね」と答えました。他園の子を受け入れたことで感染があったら、保護者に説明しにくいと頭をよぎったからです。でも、そのことを報告するとよっちゃん（烏野主任）が「それって、少し変じゃない？」と首をかしげました。「受け入れが、まだ心配ならば受け入れない。受け入れを決めたのだったら、通常保育。お熱がないですか？ 咳はしていませんか？ 家族に具合の悪い人はいませんか？」とアトムの子たちと同じことを聞いた上で、一緒に過ごしたらあかんの？アトムで同じ時間を過ごすのに、健康な子ふたりを隔離して保育なんて、なんだか気持ち悪い」。事務室で一緒にその話を聞いていた明子さん（林）が「そうだよね」とうなづきました。「私たちが、お父さんお母さんに説明しないとイケないのは、他園の子は隔離しますから心配しないでじゃなくて、うちの園の休日保育は、熊取の子みんなが在園児です。アトムが応援しているのは、熊取中の休日働くお父さんやお母さんなんですよということなのかも」。

大事でシンプルなことこそ、目の前の事象にばかり捉われていると、見えなくなりそうになります。特に、常に感染のリスクと隣りあわせに過ごしてきたこのコロナ禍では、判断基準や方向性が揺らぎそうになったり、あとから思うとあいまいで間違った判断だったと振り返るようなこともたくさんあります。でも、そんな時々、「あれ？」とひっかかったことを言葉にしてくれたり、「待って」と引き戻したりしてくれる仲間がいることは、本当にありがたいことです。

その日曜日は、私も保育の日でした。園庭で「お～い、すいかさん、みかんさん部屋にはいるよ～」と声をかけると、「私、みかん組じゃないで」と他園の 5 歳児の女の子がにやっと笑いました。「私も、すいか組じゃないよ」と地域の子どもの園の 4 歳児の女の子。「ごめん、ごめん。そうだったね。ほんとは何組さんの？」と私が聞くと、ふたりは、顔を見合わせてにやり、「アトム休日組やんか」。私は、彼女たちが平日に通う園でのクラスを尋ねたつもりでしたが、のなちゃん、知らないの？とでも言いたげなふたりの笑顔につられて私もアハハと笑いが込みあげます。当の子どもたちの方が、よっぽど、シンプルに、アトムの休日を自分の場所だと認識してくれているみたいです。